

日医ニュース

No. 1319
2016. 8. 20

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代) / FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)

- 役員紹介(副会長) 3面
- 「日本健康会議2016」が開催される ... 4面
- 勤務医のページ 8面

日本医師会役員就任披露パーティー

安倍総理始め 多くの参会者が 第3次横倉執行部の門出を祝う

公益社団法人 日本医師会 役員就任披露パーティー



麻生副総理兼財務大臣

新役員一同は午後5時、盛大な拍手に迎えられて登壇。中川俊男副会長が、「たぐさんの方々にご参集頂き、感激して迎えることができました。本日は何卒よろしくお願ひ申し上げます」と開会を宣言し、パーティーはスタートした。

冒頭、あいさつに立った横倉義武会長は、参会者に謝意を示した上で、「超高齢社会を迎えたわが国においては、社会保障を充実させることで国民に安心を示すことが必要であり、その安定が経済を包含した過不足のない医療を提供できるような



安倍内閣総理大臣

半延期されたことでの厳しい改定になることが予想されるが、国民が安心して医療や介護を受けられるよう、必要な財源の確保に努めていく」とする。また、「我々医療側からも、予防医療を包含した過不足のない医療を提供できるような

日本医師会役員就任披露パーティーが7月26日、都内のホテルで開催され、第137回日本医師会定例代議員会で選任・選定された第3次横倉執行部が披露された。当日は、現役閣僚や与野党の国会議員を始め、1000名を超える出席者が集まり、新執行部は祝福と激励を受けた。(閣僚等は、開催日時点の役職を掲載)



塩崎厚生労働大臣

高久史磨日本医学会長は、「日本医学会の下にある126の分科会と一体となって、医学の面から日医を支えていきたい」とする。また、新執行部が誕生した日本専門医機構にも言及。日医と協力して、その運営の

提言を行っていく」との考えを示した。その上で、3期目に関しては「まちづくり」「人づくり」「組織づくり」の3つを基本方針として、会務に臨むと改めて説明。今後については、「国民と共に歩む専門家集団」として、世界に冠たるわが国の国民皆保険を堅持しながら、国民の視点に立って、真に国民が求める医療提供体制の確立に向け、執行部一丸となって取り組んでいくので、ご支援・ご協力をお願いしたい」と述べた。引き続き、来賓者から祝辞が述べられた。最初にあいさつした塩崎厚生労働大臣は、「新たな局面を迎えている医療・介護分野において、日医には常日頃から強いリーダーシップの下で厚生行政にご協力頂いている」として感謝の意を示すと同時に、本年が前身の大日本医師会の発足から100年の節目の年に当たることに触れ、これを機に新たな保健医療をつくり上げていくと述べた。続いて、高村正彦自民党副総裁・国民医療を守る議員の会長が登壇。「わが国の健康寿命がトップクラスにあるのは、国民皆保険の下で、日医の会員の先方に各地域において医療に動んで頂いているおかげである」として、感謝の意を表明。その上で、「今後も、良質な医療を提供できるような形で国民皆保険をしっかりと守っていきたいと考えているので、引き続きの支援をお願いしたい」とした。

(2面に続く)



加藤一億総活躍担当大臣



石原社会保障・税一体改革担当大臣



高村自民党副総裁

(1面より)
その後、久野梧郎日医
支援をしていきたいとし
た。代議員会議長が登壇。久
野議長の首領により乾杯



野田自民党社会保障制度に関する特命委員会委員長



稲田自民党政務調査会長

**国民皆保険をしつかり守り
健康寿命を延ばしていくことが重要**
—安倍総理—

歓迎の合間には、安倍
晋三内閣総理大臣、麻生
太郎副総理兼財務大臣、
石原伸晃社会保障・税一
体改革担当大臣、加藤勝
信一億総活躍担当大臣を
始めとした現役閣僚の
他、稲田朋美自民党政務
調査会長、野田毅自民党
社会保障制度に関する特
命委員会委員長、羽生田
俊参議院議員などが訪
れ、新執行部誕生を祝う
あいさつが行われた。
安倍総理は、「皆さん
のご努力により、社会保

が行われた。
会場は、新執行部に対
する大きな期待から、立
錐の余地もないほどの盛
況ぶり、横倉会長の周
囲は、お祝いや激励の言
葉を述べる来賓者であふ
れた。



高久日本医学会長

麻生副総理兼財務大臣
は、「日医と財務省双方
が今後もコミュニケーション
をしっかりと取ってい
くことが大事になる」と
強調。
石原社会保障・税一体
改革担当大臣は、「創薬・
医療機器の開発において
も日本がしっかりとリー
ドできる体制を整えるこ
とで医師会の先生方を側
面からサポートしてい
きたい」とした。

野田自民党社会保障制
度に関する特命委員会委
員長は、2年後に控えた
診療報酬・介護報酬の同
時改定について触れ、「国
民の今後の人生設計が不
安のないものとなるよ
う、医療・介護体制をし
っかりとバックアップし
ていきたい」とした。
羽生田参議院議員は、
「これからも日医と共に
国民医療のために力を尽
くしていきたい」と明言。
また、先の参議院議員
選挙において当選を果た
した自見はなご参議院議

障費の伸びが低く抑えら
れている」として感謝の
意を表明。今後について
は、「国民皆保険をしつ
かり守り、健康寿命を延
ばすことで、医療費を強
制的にはなく、あくま
でも自然な形で引き下げ
ていくことが重要にな
る」とした上で、「経済
が成長していく中で、国
民が健康に暮らしてい
けるよう、引き続き日医と
手を携えていきたいと考
えているので、ご支援・
ご協力をお願いしたい」と
述べた。

加藤一億総活躍担当大
臣は、「私どもが掲げて
いる一億総活躍の基盤は
何と云っても健康であ
り、安心である。そうい
う基盤を横倉体制の下で
しっかりと築き上げて欲
しい」と要望。



自見参議院議員



羽生田参議院議員



員は、選挙への協力に謝
意を示すとともに、「今
後6年間、皆様のお役に
立てるよう頑張ってい
たい」として、引き続き
の支援を求めた。
午後7時、今村聡副会
長が参会者に対して、「多
くの方にご参集頂いたこ
とは日医に対する期待の
表れであり、責任の重さ
を改めて感じている。医
療を取り巻く現状は厳し
いものがあるが、横倉会
長の指導の下、皆様方
のご協力を得ながら国民医
療の向上に引き続き努め
ていきたいと考えている
ので、ご支援をお願いし
たい」と謝辞を述べ、パ
ーティーは盛会裏に終了
となった。

役員紹介へ副会長

中川 俊男 副会長



定例代議員会において、副会長に選任・選定

頂き、心より御礼を申し上げます。

日本の公的医療保険制度は、国民の安心の寄り所です。日本の医療は、地域の実情に沿って絶妙な形で提供されています。国民皆保険を堅持し、

地域医療を守るため、私心を捨てて邁進します。

国民皆保険が高額薬剤によって揺るがされようとしています。薬剤の適正使用の推進に加え、薬価算定方式自体も見直します。そして、公的医療保険制度の持続可能性を高め、医療本体がより評価されることを目指します。

今年度は、全ての都道府県で地域医療構想が策定されます。地域医療構想は、医療関係者自らが地域医療を再構築するための仕組みです。決して医療費抑制のツールとして利用されないよう、体を張って注視します。

今村 聡 副会長



6月の定例代議員会において、副会長に選任・選定頂き、深く感謝申し上げます。その責任の重さを実感し、身の引き締

まる思いでおります。

これからの任期2年間、横倉義武会長の下、他の役員と協働し、都道府県・市区等医師会や医療関係団体と密接に連携を図りながら、日医、そして国民医療のために全力で働くことを改めて決意しているところであります。

分掌については、従来の担当を継続しつつ、総務を中心に担わせて頂くことになりました。

さて、周知のとおり、消費税率の引き上げが2年半先延ばしになったことで、医療を始めとした社会保障の財源確保が極めて厳しい状況になっていきます。

また、日医がこれらの責務を果たすためには、医師会の組織力の強化は待たなしの重点課題です。会員一人ひとりの能力と知恵を集めて頂き、非会員の方々に日医の役割を理解し、日医の活動に参画して頂くための具体的な方策を立て、組織力強化に努めて参ります。

そのような状況でも、国民に安全・安心な医療を確保することは、日医の責務です。必要な財源の確保や医療機関の安定的運営のために尽力いたします。

松原 謙二 副会長



この度、副会長に選任・選定頂きました。3期目を迎えるに当たり、改めて責任の重さを感

し、身の引き締まる思いをいたしております。

副会長として、横倉義武会長をお支えし、会長が掲げる「まちづくり」「人づくり」の3つの基本方針の実現に向け邁進して参る所存です。

き、学術を担当することになりました。先生方にご心配をお掛けした新たな専門医の仕組みにつきましまして、日本専門医機構の副理事長として、引き続き地域医療に影響を与えたいという思いを込めて参ります。

また、医療事故調査制度に関しましては、自民党のワーキングチームで

の議論を基に、先般見直しが行われましたが、今後もより良い制度となるよう、さまざまな提言を行って参りたいと思っております。

超高齢社会を迎え、医療を取り巻く環境はますます厳しくなっておりますが、誰もが過不足なく医療を受けることができ、国民皆保険体制を守るため、執行部一丸となっ

て全力を尽くして参りますので、今後もご支援、ご協力頂きますよう、お願い申し上げます。

医師会、医療政策、広報、情報、医療保険(副)、労災・自賠責、介護保険、福祉、学術、生涯教育、先端医療、倫理、医療関係職種、精度管理、精神保健、感染症危機管理対策、予防接種、国際、医療安全、医事法制、医賠責、日医総研、図書館、電子認証センター

日医 定例記者会見

7月27日

平成28年熊本地震に対する支援金及びJMAT活動の終了について報告



石川広巳常任理事は、日医に寄せられた熊本地震に対する支援金並びに配賦先について公表しました。

会でも災害前からJMATを編成していた④兵庫県医師会、沖縄県医師会などが現地でコーディネーター役を担うケースもあった——ことなどが挙げられるとした。

今後の取り組みについては、「都道府県医師会JMAT担当理事連絡協議会」の開催(9月21日)、会内の「救急災害医療対策委員会」における検討、「JAXA(国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)等との防災訓練衛星利用実証実験」の実施——等を通じて、JMAT活動の報告・検証を行っていく他、国の防災行政におけるJMATの位置づけの強化に努めていく考えを示した。

同常任理事は、本年4月14日に発生した熊本地震で被災した医療機関及び地元医師会を支援するため、全国の医師会並びに会員各位に支援のお願いをしたところ、総額4億7407万9529円の支援金が寄せられ、その中には、台湾医師会並びに台北市医師会からの多額の支援金も含まれることを報告した。

JMATの派遣状況については、7月16日までに、派遣チーム数が568、派遣人数が2556名であると説明。今回のJMAT活動の特徴としては、①東日本大震災時に比べて「JMAT」の名前が浸透していた②災害前から九州医師会連合会にて相互支援協定を締結していた③熊本県医師



ニュースポータルサイト「日医on-line」では定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧頂けるようになっています。ぜひご利用下さい。

<http://www.med.or.jp/nichiionline/>

「日本健康会議2016」が開催される “国民の健康を願う想いをひとつに”を合言葉に 健康なまち・職場づくりの実現を要請

横倉会長

「日本健康会議2016」が7月25日、都内で開催された。

平成27年7月に発足した「日本健康会議」は、少子高齢化が急速に進展する日本において、国民一人ひとりの健康寿命の延伸と適正な医療について、民間組織が連携し、行政

の全面的な支援の下、実効的な活動を行うために組織された活動体である。

同会議は、経済団体、医療関係団体、保険者等の民間組織や自治体を含めた32団体が実行委員として名を連ねており、横倉義武会長が共同代表を務めている。

当日は、共同代表の三村明夫日本商工会議所会頭のあいさつで開会し、塩崎恭久厚生労働大臣並びに加藤勝信一億総活躍担当大臣からの来賓あいさつが行われた。

第一部の「健康なまち・職場づくりの宣言2020」達成状況の報告では、渡辺俊介日本健康会議事務局長が、昨年の同会議にて採択された8つの宣言の達成状況を認るために実施した保険者全体を対象とした調査について報告した他、横尾俊彦全国後期高齢者医療広域連合協議会長、

白川修二健康保険組合連合会副会長、小林剛全国健康保険協会理事長が、その調査概要についてそれぞれの立場から説明を行った。

また、6月2日に開催された「健康づくりと生涯現役社会を考える首長懇談

会」の概要がビデオで紹介された。

これらの報告を受けて、横倉会長は、「社会保障費は、医療・介護等を中心に今後も増加することが見込まれているが、国民皆保険を堅持していくため、本会議としても過不足ない適切な医療提供を実現するための提言をしなくてはならない」と強調。

「健康なまち・職場づくり宣言2020」を着実に達成するための方策に関して、(1)ワーキンググループ(以下WG)において、保険者データヘルス全数調査の結果について議論を深めること、(2)日本健康会議2016のコンセプトに従い、宣言達成状況を地域ごとに可視化及び横展開を目的とした事例紹介を進めていくこと、(3)積極的に保健事業を行う自治体や企業に向

けた支援策を講じることの3つの取り組みを推進していくとした。

その上で、横倉会長は、「国民の健康を願う想いをひとつに」を合言葉に、関係各所が手を携え、議論を交わし、研鑽を積み重ねていくことで、健康なまち・職場づくりを実現しよう」と述べ、更なる協力を要請した。

午後からの第二部では、「保険者データヘルス全数調査」にみる好取り組み事例の紹介や同会議の下に設置された5つのWGの座長から「宣言」達成への取り組みに関する報告が行われた。

これらの報告を踏まえて総括を行った横倉会長は、健康な高齢社会の実現による明るい社会づくりのためのキーワードとして「かかりつけ医」を挙げ、医師の側にもその

意識を高めてもらうために、本年4月から、日医でも「日医かかりつけ医機能研修制度」を開始したことを報告。今後については、「本日報告頂いた取り組みをしっかり検証し、全国展開していきたい」とするとともに、「その実現のためには、日本健康会議の果たす役割がますます重要になる」として、引き続きの協力を求めた。

理事の進行の下、横倉義武会長始め日医役員、日本製薬工業協会、米田研究製薬工業協会、武見フェローJMB、日医総研役員、JMAJDN、ら約60名が出席し、報告と質疑応答が行われた。

冒頭あいさつした横倉会長は、昨年6月にボストンの同プログラムを視察した際に、フリオ・フレック学院院长から、ハーバード大学内においても同プログラムは高い評価を得ているとの説明を受けたことを紹介。「各国の公衆衛生の向上にも貢献している同プログラムを、日医としても引き続き支援していきたい」と述べるとともに、参加者に対して協力を求めた。

報告では、まず豊川氏が「感染症指定医療機関調査からみた一類感染症対応の課題」と題して、2014年以降のエボラウイルス感染症の大規模流行と医療従事者の高い

要請した。

「原子力災害対策の人權保障上の課題」と題して講演した棟居氏は、東京電力福島第一原子力発電所事故以降も、国際的な原発の需要は低下しておらず、原子力災害対策は世界的な重要課題となっている」と指摘。

原子力災害被災者の人權保障に必要なこととして、不必要な被ばくの回避、放射能に関する情報へのアクセス、健康検査の受診と結果の説明、被ばくに対応するヘルスケア(精神的・心理的ケアも含む)へのアクセス、意見の表明及び自らの健康に関する全てのレベルにおける意思決定への参加の機会を与えることなどを挙げた。

また、わが国の今後の課題としては、人權的モニタリングのメカニズムの構築、人権ガイドライン・人権指標の開発などを挙げ、その整備が進むことに期待感を示した。

2015~2016年度武見フェロー帰国報告会
武見フェロー2名が
研究成果を報告

2015~2016年度の武見フェローである豊川貴生氏(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター内科医長)、棟居徳子氏(金沢大学人間社会研究域法系准教授)による帰国報告会が7月26日、日医会館で行われた。

武見国際保健プログラムは、1983年に武見太郎元日医会長の国際保健における「医療資源の開発と配分」の構想に着目したハーバード大学が、日医の協力の下、同大学公衆衛生大学院にその名を冠して設置した学際的プログラムであり、日医から毎年2名の研究者を派遣している。

報告会では、道永麻里常任

は、「保険者データヘルス全数調査」にみる好取り組み事例の紹介や同会議の下に設置された5つのWGの座長から「宣言」達成への取り組みに関する報告が行われた。



白川修二健康保険組合連合会副会長、小林剛全国健康保険協会理事長が、その調査概要についてそれぞれの立場から説明を行った。

また、6月2日に開催された「健康づくりと生涯現役社会を考える首長懇談会」の概要がビデオで紹介された。

これらの報告を受けて、横倉会長は、「社会保障費は、医療・介護等を中心に今後も増加することが見込まれているが、国民皆保険を堅持していくため、本会議としても過不足ない適切な医療提供を実現するための提言をしなくてはならない」と強調。

「健康なまち・職場づくり宣言2020」を着実に達成するための方策に関して、(1)ワーキンググループ(以下WG)において、保険者データヘルス全数調査の結果について議論を深めること、(2)日本健康会議2016のコンセプトに従い、宣言達成状況を地域ごとに可視化及び横展開を目的とした事例紹介を進めていくこと、(3)積極的に保健事業を行う自治体や企業に向

けた支援策を講じることの3つの取り組みを推進していくとした。

その上で、横倉会長は、「国民の健康を願う想いをひとつに」を合言葉に、関係各所が手を携え、議論を交わし、研鑽を積み重ねていくことで、健康なまち・職場づくりを実現しよう」と述べ、更なる協力を要請した。

午後からの第二部では、「保険者データヘルス全数調査」にみる好取り組み事例の紹介や同会議の下に設置された5つのWGの座長から「宣言」達成への取り組みに関する報告が行われた。

これらの報告を踏まえて総括を行った横倉会長は、健康な高齢社会の実現による明るい社会づくりのためのキーワードとして「かかりつけ医」を挙げ、医師の側にもその意識を高めてもらうために、本年4月から、日医でも「日医かかりつけ医機能研修制度」を開始したことを報告。今後については、「本日報告頂いた取り組みをしっかり検証し、全国展開していきたい」とするとともに、「その実現のためには、日本健康会議の果たす役割がますます重要になる」として、引き続きの協力を求めた。

「原子力災害対策の人權保障上の課題」と題して講演した棟居氏は、東京電力福島第一原子力発電所事故以降も、国際的な原発の需要は低下しておらず、原子力災害対策は世界的な重要課題となっている」と指摘。

原子力災害被災者の人權保障に必要なこととして、不必要な被ばくの回避、放射能に関する情報へのアクセス、健康検査の受診と結果の説明、被ばくに対応するヘルスケア(精神的・心理的ケアも含む)へのアクセス、意見の表明及び自らの健康に関する全てのレベルにおける意思決定への参加の機会を与えることなどを挙げた。

「医師資格証」 を持ちましょう

日医会員は4月より取得時の発行手数料が無料になった他、年間利用料も廃止されました。発行を希望される方は、下記のホームページをご覧ください。

日本医師会電子認証センター
<http://www.jmca.med.or.jp>
 E-mail toiawase@jmca.med.or.jp

南から北から

愛媛県松山市医師会報 第306号より
家で金魚すくい
川崎 尚美

土曜夜市や花火大会などのイベントに欠かせないのが露店の「金魚すくい」である。子ども達は大好きで、花火大会の時には、夕方の明るい時から現地に行くと、金魚すくいを飽きるまでやって10袋ほどぶら提げて戻ってくる。それから花火鑑賞。そのため、酸素の錠剤は必需品である。それを、何とか家まで持ち帰り、水槽に放つ。土曜夜市でも、ほとんどの時間と小遣いを金魚すくいに費やし、数袋ずつ提げて帰る。大変だ。

おかげで家の水槽は、その金魚達を飼うために大きなものとなった。そこで思いついた。「これなら家で金魚すくいができるのではないか。そうすれば金魚すくいのために出かけなくてもいいのではないか」と。そこで自宅で金魚すくいができるように準備した。「金魚すくい」で見かけるほとんどの金魚は和金(小赤)である。あと、出目金とひれのあるものが琉金である。やや浅めで大きい水槽を購入

し、金魚すくうための「ポイ」も購入する。市内のペットショップで大量購入できた。そういえば、金魚すくいの時に、簡単に破れるものと、結構破れにくいものがあることに気づく。露店によっては、1ポイ300円のものや500円のものも選べたりする。実は「ポイ」には強度があり、破れやすいものから、しっかりしたものまである。4〜7号が販売されているが、4号が強くて破れにくく、7号が破れやすいものになる。

大会に備えての練習になっている。しかし、最近では生きている金魚は管理が必要のためか、スーパーポイすくいや玩具の金魚を使った模擬金魚すくいのほうが多く見かけるような気がする。「金魚すくい」の露店は貴重な存在となってきている。

家で「金魚すくい」ができるので、もう露店での金魚すくいは行かなくていいかと思いきや、今では、家での金魚すくいの目的が、夜市や花火に挑戦しよう。

長野県長野医報 第638号より
脳外科から農芸家へ
市川 昭道

団塊の世代の最後に当たる私にとって、小学校の頃から農業は生活の一部であった。春・秋には農繁休業という1週間ほどの農作業のお手伝い休みがあり、このせいか夏休みは短く、盆が終わるとすぐ2学期が始まる。特に春はたまねぎの収穫、秋は稲の刈り取り、はぜ掛けで暗くなるまで仕事の手伝いをさせられた。好きでやっていたわけではないので、収穫後の田んぼで友達と野球をし、自家製の竹の釣竿で釣りをするのが楽しみであった。春は桑の実を、秋は柿をおやつに遊んだ記憶が懐かしい。

このような農作業は中学まで続き、その後新潟大学を卒業し脳研究所脳神経外科に入局した。1年目の冬に医局のスキー旅行でニセコに行った際に、見知らぬ方にゲレンデで写真を撮っていたのだが、送られてきた写真が入った封筒には新潟大学脳研究所農芸科と宛名が書かれてあり、脳外科の認知度の低さと郵便局の機転のすばらしさに驚いたのを覚えている。

そして昭和62年に長野赤十字病院に出張となったが、借りた一軒家の大家さんが農業大学の講師をやっていたことから、授業で余った苗をよく持って来てくださり、指導も受けることになった。以上が本格的に農作業をやる以前の経過である。平成7年春には母一人で暮らしている現千曲市に戻ってきたが、それからが大変であった。千坪もある土地に傷んだ家

が8軒あり、屋根はジャングル状態であったから。初めの2、3年間はのこぎりチェーンソーが必要で、林業をやっているようであった。ようやく農業と思われる副業をやるようになったのはここ10年余りであるが、今でも冬は柿・梅・松・銀杏・竹などを相手に剪定・伐採をやっている。

作業ばかりでなく、春のウド、タラノメを味わう会、夏野菜を楽しむ会、秋の収穫祭などを開き、旬を堪能している。ダッチオーブン・煙製器なども食材をより美味しくするアイテムである。余った野菜・果実はジュース・ジャム・ビン詰めに加工し、折々に楽しんでいる。11月には干し柿用の柿をむき、12月

「旬」の新鮮なものを口にする。そのための努力研究は相当必要であり、さまざま知識・経験が物を言う。種から植物を育てる新鮮さ・驚きもまた別格のものである。米作までやるの大変な努力を要し、本職を辞めなければならぬため、果樹・野菜に限定している。

耕作面積があまりに広いため、3人の弟子にそれぞれ耕作地を分け、1台のマトラを使って土日・休日に和気あいあいと汗を流している。一番弟子とは互いの知識を共有し、年々新しいエピソードが加わるのを楽しんでいて、モチベーションが上がる。モーターは農薬をほとんど使わないこと、作物から種を採り可能な限り苗から育てることとしている。2、3番弟子は仕事上週1回くらい作業で、進歩が見られないのが残念であるが、彼らの失敗は私の教訓ともなっている。

東京都中野区医師会新聞 第582号より
どうしようもないある一日
野口 悦正

シユポシユポシユポ。私「血圧は120/70ですね。患者「さっきと同じですね。私「え？ そ、そうですね(あれ、さっき測ったっけ?)。暇な時に分散してくればいいのに、患者の来られる時間は集中して、その時はつい焦ってしまい、自分の言動がおかしくなる。そして、ますます余計な時間を掛けてしまいます。

そういう時に限って、「レントゲンお願いしましす」などと奥から呼ばれ、ハイハイと急に立ち上がり、つまずいて患者と抱き合い気まずい空気が流れる。気を取り直してレントゲンを撮り、急いで帰ってきて「ところで咳はどうですか?」と聞くと、「ですから、それで来院したんですよ。あ、これが主訴じゃない

にはもちつき大会で1年の農作業を締めくくっている。さて、本職の脳外科は局所麻酔の手術から、自分で全身麻酔をかけて行う手術までやっているが、いつまで続けられるか悩みながら、コンセンレーションが低下する前にメスを置こうと考えている。今日この頃である。(一部省略)

え、相当進行していると思います」「分かりました。では簡単にチェックしてみましよう。すいませーん、手の空いている方、ハセガワお願い」「あれまあ呼び捨てされた。しまった、この方長谷川さんじゃないか、何でこういう時に省略しちゃうんだ。焦っている時こそ長谷川式簡易知能評価スケールってきちんと言え

シユポシユポシユポ。30点満点中16点しかないのか、そうは見えないけどな。「先生、痛いんですけど」。おっと、考え事してたら250ミリメートルエイチジーまで加圧してしまった。「すいません、血圧は大丈夫のようですね」「何だか私の血圧まで測っていただいて申し訳ないですね。母のことで相談に来たのに。それでは本人に入ってもらいますね。だよ、この方娘さんだったんだ。おかしいと思った。もう恥ずかしくて生きていけない。

こんな時ほどにかく明るくいえない。「先生、今日もちゃんと糖尿病の薬入れていますね」「安心してくださーい。入っていますよ」。どこかで聞いたような口調で何とかが乗る。

これ、全部本当のことである。こんなどうしようもない一日を過ごしたことはありませんか?

「はっ!」「……いへ何でもありません。何やっていますか?」これはいるんだ自分は。これはさっきの患者のカルテじゃないか。急に便秘なんて言われたら驚くに決まっている。「いえ、その、咳止めで便秘したことはないですか?」「あ、それはありません。ホッ、何とか会話が成り立った。さて、次の方。「最近、物忘れがひどくて」「そうですね?」「そういう感じじゃないけど」。一見普通の主婦である。「い

案内

子育て支援フォーラム in 秋田 ～子育ての応援とゼロ歳児からの 虐待防止を目指して～

◆主催(共催)：日医、公益財団法人SBI子ども希望財団、秋田県医師会

◆後援：厚生労働省他

◆日時：9月17日(土) 午後2時30分～5時30分

◆会場：秋田市文化会館小ホール(〒010-0951 秋田県秋田市山王7丁目3-1)

◆参加費：無料

◆申込方法：日医ホームページ(<http://www.med.or.jp/people/info/seminar/00323.html>)から所定の申込書を入力し、必要事項を記入の上、郵送またはFAXにより秋田県医師会宛てに申し込み願いたい。

◆申込締切：9月9日(金)。ただし、定員(400名)になり次第締め切る。

◆主なプログラム：
①あいさつ 横倉義武会長、小玉弘之秋田県医師会長
②シンポジウム
・「秋田県における妊娠中からの子育て支援事業―現況と課題―」(平野秀人秋田県医師会児童虐待予防小委員会委員)
・「おがっこネウボラ」切れない子育て支援

を指して「(加賀谷朱美男鹿市健康子育て課健康班)」

・「全県で始まった母乳相談無料券を利用した子育て支援」(齋藤貴子あきた母乳育児を支える会)

・「今日の子ども家庭と社会的養護の現状・課題」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長/山梨県立大学人間福祉学部特任教授)

③講演
・「絵本の中の子どもたち」(内海裕美日本小児科医会常任理事(子ども心の相談医))

④討議
◆問い合わせ・申し込み先：秋田県医師会(〒010

10874 秋田県秋田市千秋久保田町6-6
☎018-8333-7401、
FAX018-8321-1356、
E-mail: gakuta@med.or.jp

※当日は会場内に託児所を無料で設置する予定(定員10名)。利用希望者は申込用紙に記入願いたい。

日本医師会 医療安全推進者養成講座 「講習会」

日医が実施している「医療安全推進者養成講座」(e-learning形式の通信制講座)では、カリキュラムの一環として、1年に1回講習会を開催している。

本講習会については、例年講座受講者以外でも参加可能としており、今

年度も一般の医療従事者に対象を広げ募集を行う。希望者は左記の要領に従い、申し込み願いたい。

◆主催：日医
◆日時：10月16日(日) 午後1時～5時

◆会場：日医会館大講堂
◆参加対象：医療の安全

推進に取り組んでいる医療機関、福祉関連施設の従事者及び都道府県医師会、郡市区医師会の苦情・相談受付窓口業務担当者等

◆定員：300名(講座受講者含む)

◆参加費：3240円(講座受講者は不要)

◆申込方法：日医ホームページ(<http://www.med.or.jp/anzen/yk28.html>)を参照の上、必要事項を明記し、電子メールまたはFAXにより申し込み願いたい。

申込者には、後日、参加費振込先等を記載した電子メールまたはFAXを返信する(ただし、講座受講者は参加費不要につき、必ず講座学習専用サイトから申し込み願いたい)。

◆申込締切：9月30日(金)。ただし、定員になり次第締め切る。

◆主なプログラム：
・「薬剤師の視点から見た医療安全(仮)」(土屋文人日本病院薬剤師会副会長)
・「医薬品医療機器総合機構(PMDA)における医療安全の取り組み(仮)」(俵木登美子医薬品医療機器総合機構組織運営マネジメント役上席審議役)

・「多職種で取り組む医療安全(仮)」(相馬孝博千葉大学医学部附属病院医療安全管理部教授)

◆問い合わせ先・申し込み先：日医医事法・医療安全課(☎03-3942-6506(直)、FAX03-946-6295、safe@med.or.jp)

日本医師会 医師年金

医師年金は、日本医師会が運営する医師専用の私的年金です。

日医会員で満64歳6カ月未満の方が加入できます(申し込みは64歳3カ月までをお願いします)。

ホームページを参考に、加入をご検討下さい。

<http://www.med.or.jp/nenkin/>

ご加入時の受取年金額のシミュレーションが可能です
 <トップページ→シミュレーション>

年金専門誌「年金情報」で管理運用体制が高く評価されました
 <トップページ→お知らせ>

お問い合わせ・資料請求等

日医年金・税制課 ☎03-3942-6487(直) (平日9時半～17時)



日本医師会女性医師支援センター

女性医師バンクから

Woman Doctor Bank

女性医師支援センター事業ブロック別会議

女性医師バンクを含む女性医師支援センター事業を今後も継続発展させていくため、日本医師会女性医師支援センターでは、地域からの声をお聞かせ頂くと同時に、本事業へのご理解を深めて頂くという双方向による情報の伝達並びに各地域内での情報交換の機会として、平成21年度より標記会議を全国6ブロックにて開催している。今年度も、引き続き、各ブロックでの開催をお願いしており、開催日程は以下のとおりである。女性医師の活躍推進のため、積極的な参加をお願いしたい。

◇北海道・東北ブロック (担当：秋田県医師会)

日時：平成28年9月24日(土) 13時～
場所：秋田市内ホテル

◇近畿ブロック (担当：京都府医師会)

日時：平成28年10月1日(土) 15時～
場所：京都府医師会館

◇中国四国ブロック (担当：山口県医師会)

日時：平成28年11月5日(土) 15時～
場所：岡山コンベンションセンター

◇中部ブロック (担当：静岡県医師会)

日時：平成28年11月13日(日) 12時～14時(予定)
場所：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

◇九州ブロック (担当：沖縄県医師会)

日時：平成28年12月17日(土) 14時～16時
場所：沖縄県医師会館

◇関東甲信越・東京ブロック (担当：日医)

日時：平成29年1月
場所：日医会館

登録件数

求人 1,128 件 (延べ 5,125 件)、求職 203 名 (延べ 786 名)、
就業及び再研修決定 476 件 (平成28年7月31日現在)

問い合わせ先 女性医師支援センター(女性医師バンク)
☎03-3942-6512 ☎03-3942-7397

第2回 世界獣医師会—世界医師会 「One Health」に関する国際会議

◆共催：世界医師会、世界獣医師会、日医、日本獣医師会
◆協力：福岡県医師会他
◆日時：11月10日(木)9時～、11月11日(金)8時～
◆場所：リーガロイヤルホテル小倉(〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-2) 093-531-1121

◆テーマ：「One Health」概念から実践へ
◆参加対象者：医療関係者(一般の方の参加も可)
◆参加費：参加者18000円、同伴者10000円、医学生または獣医学生5000円(本費用は10月31日までに都道府

Health)に関する国際会議の成果と提言(Artis D. Havel)世界医師会理事会議長)
・「One Health」の概念と実践を通じて持続可能な将来に向けての国連2030世界目標の達成(George Lueteke 「One Health」教育特別委員会共同議長)
・「人と動物の共通感染症」の現状(倉根一郎国立感染症研究所長)
・「One Health」の研究訓練の世界的傾向(Gregory C. Grayデューク大学グローバルヘルス研究所教授)
・「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)：日本での発見と研究における医学と獣医学の協力」(高橋徹山口県立総合医療センター血液内科診療部長)

・「アジアにおける狂犬病廃絶の「One Health」アプローチ」(Sira Abdul Rahman英連邦獣医師会専務理事)
・地域における医師と獣医師の協力(福岡県の事例)(草場治雄福岡県獣医師会会長、稲光毅福岡県医師会理事)
・「アフリカにおけるウイルス性人獣共通感染症の調査研究」(Aaron Weeザンビア大学獣医学部教授)
・「オオコウモリを対象とした生態学調査と狂犬病関連及びその他のウイルス感染症への関与」(Srihadi Aguspriono インドネシアポロラ農業大学獣医学部長)
・「黄熱病及びリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発及びアウトブレイク警戒システム構築」(Maiti Mehtaケニア国立保健研究センターシニア所長/ケニア中央医学研究所首席研究員)
・「薬剤耐性菌発生機構の解明と対策モデルの開発」(Tinh Hong Sim トナム国立栄養研究所栄養情報・教育・広報センター長)
・「パネルディスカッション」

用「の取組—世界と日本」(大曲貴夫国立国際医療研究センター病院国際感染症センター長)
・「獣医療における適正使用の取組—世界と日本」(田村豊略農学園大獣医学群衛生・環境学分野食品衛生学教授)
「県民公開講座(福岡県セツシオン)」
・「宇宙から見た地球生命のつながり」(毛利衛宇宙飛行士/日本科学未来館館長)
「One Health」に関するその他の話題」
・「One Health」アプローチ：獣医学の貢献を中心に(Ueander Buchner 国際軍事医学委員会獣医学技術委員会議長)
・「小児病棟で活躍するセラピー犬たち」(松藤凡聖路加国際病院副院長、小児総合医療センター長、柴内裕子赤坂動物病院総院長)
・「One Health」の概念」(「One Health」の概念が実践へ」(Noel Lee J. Miranda)「トリプル保健省熱帯医学研究所」(Malcolm Chong国際獣医学学生協会、棚元なな国際獣医学連盟日本代表)
・「我が国における獣医学教育改革の現状と獣医学における「One Health」教育」(Rene Carlson世界獣医師会)
・「福岡宣言」の採択と調印

◆申込み先：日医国際課(03-3942-6486) 03-3942-6295 03-3942-6295(jointinfo.med.or.jp)

平成28年 日本医師会認定産業医制度基礎研修会 産業医科大学産業医学基礎研修会 東京集中講座

◆主催：日医、産業医科大学
◆共催：産業医学振興財団
◆開催期間：12月17日(土)～22日(木)までの6日間
◆会場：日医会館大講堂・5階会議室
◆受講者資格：認定産業医の資格の取得を希望する医師
◆受講料：12万円(税込)。テキスト・資料代、昼食代を含む)

◆取得単位：基礎研修50単位(前期研修14単位、実地研修10単位、後期研修26単位)
◆主な講習内容：
「総論」「有業務管理」「メンタルヘルス」「作業管理」「職場巡視」「作業環境」「THP」「保護員」「健康管理」「産業医活動の実践」「作業環境管理」「健康増進」「労働衛生管理体制」「労働衛生教育」(詳細はホームページ参照)

◆申込み先：産業医科大学のホームページ
http://www.noeh-u.ac.jp/index.html
「研修セミナーのご案内」より申し込み願いたい。
◆申込締切：9月16日(金)。ただし、定員(200名)になり次第締め切る。
◆問い合わせ先：産業医科大学・卒業支援課(〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区生ヶ丘1-1-1) 093-691-7464
※なお、本研修会を修了した医師は日医地域医療第二課に申請すると、日医認定産業医の資格取得が可能となる。

勤務医のページ

勤務医委員会答申

「地域医師会を中心とした勤務医の参画と活躍の場の整備」

—その推進のために日本医師会が担う役割—

の考えから、主に勤務医の意見等を集約するフレームワークの構築について審議を深めた。

審議に当たっては、広く勤務医が参集する場において理解と協力を得るために、全国医師会勤務医部会連絡協議会及び都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会と連動して活動を行った。

具体的には、全国医師会勤務医部会連絡協議会における「勤務医委員会報告」で、フレームワー

クに対する理解と協力を呼び掛けた他、平成27年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会では、各ブロック医師会推薦の勤務医委員会委員より、各ブロック医師会及び所属の都道府県医師会の現状報告を行った。

平成28年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会との協議では、フレームワークの先行事例として、中部医師会連合の取り組みを紹介した。

また、ワーキンググループにおいて、委員会での議論を整理・深化した上で、その検討内容をフィードバックし、委員会の一層の審議充実を図った。

短期的にはモデルとなるブロックを3〜4カ所設定し、日医勤務医委員会が支援する。中期的には全てのブロックでのフレームワークの構築を目指す。

短期的にはモデルとなるブロックを3〜4カ所設定し、日医勤務医委員会が支援する。中期的には全てのブロックでのフレームワークの構築を目指す。

II 提言

1. 短期的な取り組み

(1) 勤務医の意見集約のためのフレームワーク構築とブロックの体制作り

目的：勤務医活動の活性化を図るために、勤務医の意見を集約し、これを日医会務に反映させるフレームワークを作る。

方法：都市区等医師会・都道府県医師会・勤務医の意見を集約し、これをブロック別に集約する。更に(当初は)日医勤務医委員会に意見を集約し、日医勤務医理事が執行部へ具申するフレームワークを構築する。

勤務医の多様な声をこれまで以上に日医の会務に反映することが会長諮問への答申につながる。

I 勤務医委員会活動について

勤務医の多様な声をこれまで以上に日医の会務に反映することが会長諮問への答申につながる。

ググループが委員会活動を補助する。

③ ICTやテレビ会議システムを活用する。

④ 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会のあり方

目的：勤務医に関する課題や組織率の向上等、現状に対応できる充実した会議とする。

具体的には、勤務医に係るさまざまな課題について報告や意見交換を行うと同時に、組織強化としての研修医・中堅医師対策やブロックごとの懇談なども可能となるよう分科会の開催などを行う。

④ 日本医療機能評価機構への申し入れ

目的：勤務環境改善が進んでおらず、医療安全の点からも勤務医の不満がある。日医はこの課題でイニシアチブを発揮して、存在意義を示す。

方法：勤務医の健康支援に関する検討委員会と共に、同委員会が作成した「勤務医の労務管理に関する分析・改善ツール」を医療機関の機能評価に組み入れることを、日本医療機能評価機構に要望する。

⑤ 研修医に対する勤務医委員会の取り組みの強化

目的：研修医の医師会費無料化によって入会増が期待されるが、研修終了後に多くの研修医が医師会を退会する懸念がある。これを防ぐ対策を早急に作る。

無料化によって入会増が期待されるが、研修終了後に多くの研修医が医師会を退会する懸念がある。これを防ぐ対策を早急に作る。

目的：日医勤務医委員会臨床研修医部会を、組織強化の視点から勤務医委員会が援助する。

具体的には、①同部会委員を勤務医委員会が中心となって推薦する②担当する勤務医委員会委員が同部会に参加する③同部会は、全国医師会勤務医部会連絡協議会などにおいて報告された研修医活動の先進例などを地域医師会へ発信する④研修医の労働や安全を含む診療環境や専門医制度に関する議論を深め、研修医に発信する⑤これらの活動を通して、同部会が医師会活動の意義を検証し、全国の研修医に発信する。また、日医が発行する『ドクターズ』等を活用する。

⑥ 日医ニュースを用いた広報活動の活性化

目的：日医が提案し実現した制度や現在進めている活動が日医会員に十分に知られていない実情があるため、これを克服する。

方法：勤務医活動の活性化と医師会入会促進に資することを主目的とした編集方針とする。

具体的には、①勤務医委員会の活動や目指す方向性を医師会に発信す

ると同時に、勤務医に関する各委員会の情報発信のツールとする②各地の先進例や特徴的な活動を紹介する③勤務医にとって重要な問題に関する発信を行う。

中期的には、地域医師会にメールによる全医師会員への情報提供を要請し、日医から全医師会員への一斉メールも可能とする。

中期的には、地域医師会にメールによる全医師会員への情報提供を要請し、日医から全医師会員への一斉メールも可能とする。

② 中期的な取り組み

(1) ブロック代表者会議の創設

ブロック強化を進めるために、ブロック代表者会議を開催する。

具体的提案として、全国医師会勤務医部会連絡協議会の翌日(日曜日)の午前に同会議を行う。

勤務医委員会は、勤務医の視点から日医の組織改革への提言を行う組織であるべきで、医療に関する問題について勤務医の視点から検証し、プロフェSSIONナルオートノミーに基づき日医強化のための活動を活性化することが必要となる。

勤務医の医師会への参加を求めるには、勤務医のモチベーションが上がるような職責を医師会内で負わせるべきであり、勤務医が医師会に加わる

② 日医の他の委員会の活動内容の検証と協力関係の強化

目的：日医に設置された約50の委員会が有機的につながりを持ち、効果を上げることを促進する。また、勤務医活動の活性化を図る。

方法：勤務医に関係する委員会と勤務医委員会との協力関係を強化する。

具体的には、オプザーバーの派遣や各委員会間の相互報告による意見交換を積極的に行う。また、各委員会への勤務医の参加状況を把握し、勤務医の日医活動への参加を目的意識的に追求する。

③ 長期的な取り組み

(1) 医師会役員に占める勤務医比率の向上

時間的な余裕を持てることが必要である。日医は地域医師会に対して勤務医を医師会役員に登用することを提案することが必要となる。

既に、医師会組織強化検討委員会や日医の関係役員で構成された医師会組織強化ワーキンググループにおいて、医師会組織の強化についてさまざまな提案がなされているが、地域医師会内での勤務医の参画がなされるためには、具体的方策が必要であり、そのためには勤務医委員会は実行する委員会に変わることが必要と

現在、日医会員に占める勤務医の割合は約半数であるが、勤務医の日医代議員に占める割合は10%程度である。日医として医師会のために積極的に活動する勤務医を育成すると同時に、地域医師会でも勤務医の登用を積極的に進める必要がある。

医師会はそのそれぞれの時代に応じた組織に改革を推進する必要がある。そのあり方を継続的に議論し、必要な改革が行える体制が求められている。意見集約のためのフレームワークが構築されることによって、三層構造の医師会活動が有機的に結ばれると期待される。

なぜ、勤務医自身が社会のために行動しないのか、行動の時間や資源を病院管理者になぜ要求しないのか、この部分に日医はどう関わることができなのか。このことも、勤務医委員会が取り組む課題である。地域医師会での勤務医の活動を活性化するために、この実現に向けた要望も含め、答申とする。

なお、答申の全文については、日医ホームページ (<http://di.med.or.jp/dl-med/kinmu/kinmu26.pdf>) をご覧頂

きた。

きた。